

## 『しっばいにかんぱい』を読んで

弘前市立城西小学校

坂本 あおい

このお話に出てくる加奈は、運動会のリレーのアンカーに選ばれましたが、加奈がしっばいをしてしまい、チームが失くになりました。加奈はとても落ちこんで、だれとも話さなくなっていました。

加奈はとてもわたしににているなあと思いました。

私は今、ミニバスケットボールクラブに入っていて、シュートがいつも決まらなかったり、ディフェンスがうまくできない時など、試合中でも泣いてしまい、チームにめいわくをかけてしまいます。なぜ泣いてしまうのかなあとこうかいして、思いつくのもいやになります。

加奈が落ちこんでいる時、加奈のおじいちゃんから、「加奈の好きなハランずしを食べよう。」と電話がありました。親せきがたくさん集まっていました。ぐうぜんに、みんなでしっばい話をするようになりました。しんせき みんながいろいろなしっばい話をしていくと、加奈はじよじよに元氣

をとりもどしていきました。最後には「しっばいにかんぱいだ！」と言ってみんなでかんぱいしました。

その時加奈が、「わたしはね、とんでもないしっばいをして、みんなにめいわくをかけちゃったの。わたしのしっばいも笑って話せる日がくるかしら。」と言いました。

私はこの言葉がとても心に残りました。そして、しっばいって不思議だなあと思いました。しっばいした時はくやしかったり、悲しかったりするけど、後から「次に生かそう」とか、「次は同じしっばいをしないようにしよう」と思うからです。しっばいはいやなことだけど大切なものでもあると思います。

今度のバスケの試合の時には、もししっばいしても泣かないようにしてがんばりたいです。

みんなのしっばいに、加奈のしっばいに、そして、私のしっばいにかんぱいだ！